

施設栽培ビワ「福原早生」の環状剥皮による枝数増加法						
<p>[要約] 「福原早生」の不定芽は、環状剥皮を行うことで多く発生する。また、環状剥皮幅は広い方が不定芽の発生は多い。</p>						
長崎県果樹試験場・常緑果樹科	専門	栽培	対象	果樹類	分類	指導
平成8年度長崎県果樹試験場業務報告						

[背景・ねらい]

福原早生ビワの結果枝を増加させるため、環状剥皮ナイフ及び鋼鉄ワイヤーを用いた環状剥皮処理による不定芽の発生を検討する。

[成果の内容・特徴]

- ①鋼鉄ワイヤー処理による不定芽の発生は57%でやや発生率が少ないが、環状剥皮ナイフを用いた環状剥皮処理による不定芽の発生は100%と高い(表1)。
- ②環状剥皮ナイフを用いた環状剥皮処理での不定芽の発生は、剥皮幅が広い区が狭い区に比べ多く発生している(表1)。
- ③剥皮幅を広く処理した枝では発生した不定芽の多くが5cm以上に伸長したが、剥皮幅を狭く処理した枝では5cm以上に伸長したものは少い(表1)。

[成果の活用面・留意点]

環状剥皮処理部分へのナシヒメシンクイの食入及びがんしゅ病の発病を防止するため、環状剥皮処理後は速やかにペーストマイシン(パダン水溶剤5%加用)等で病害虫の防除を徹底する。

[具体的データ]

表1 環状剥皮処理による不定芽の発生

処理方法	剥皮幅	処理数	発生枝数 (本)	5cm以上 伸長枝数	不定芽発生率 (%)
環状剥皮ナイフ	1mm	10カ所	36	10	100
	2mm	10カ所	47	36	100
鋼鉄ワイヤー	1mm	10カ所	26	5	57

注) 処理時期：平成8年6月5日

処理枝の太さ：直径約2.5cm

処理位置：直立枝：基部より約5cmの位置

水平枝：基部より約20cmの位置

[その他]

研究課題名：施設栽培長崎甘香「福原早生」ビワの果実障害の防止と安定多収技術の確立

予算区分：県単

研究期間：平成8年度（平成7年～9年）

研究担当者：松浦正，今村俊清

発表論文等：平成8年度 長崎県果樹試験場業務報告。